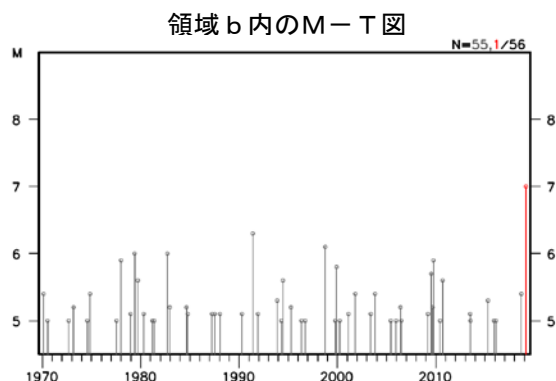
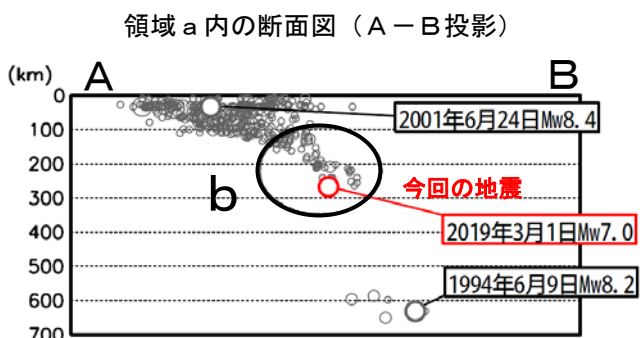
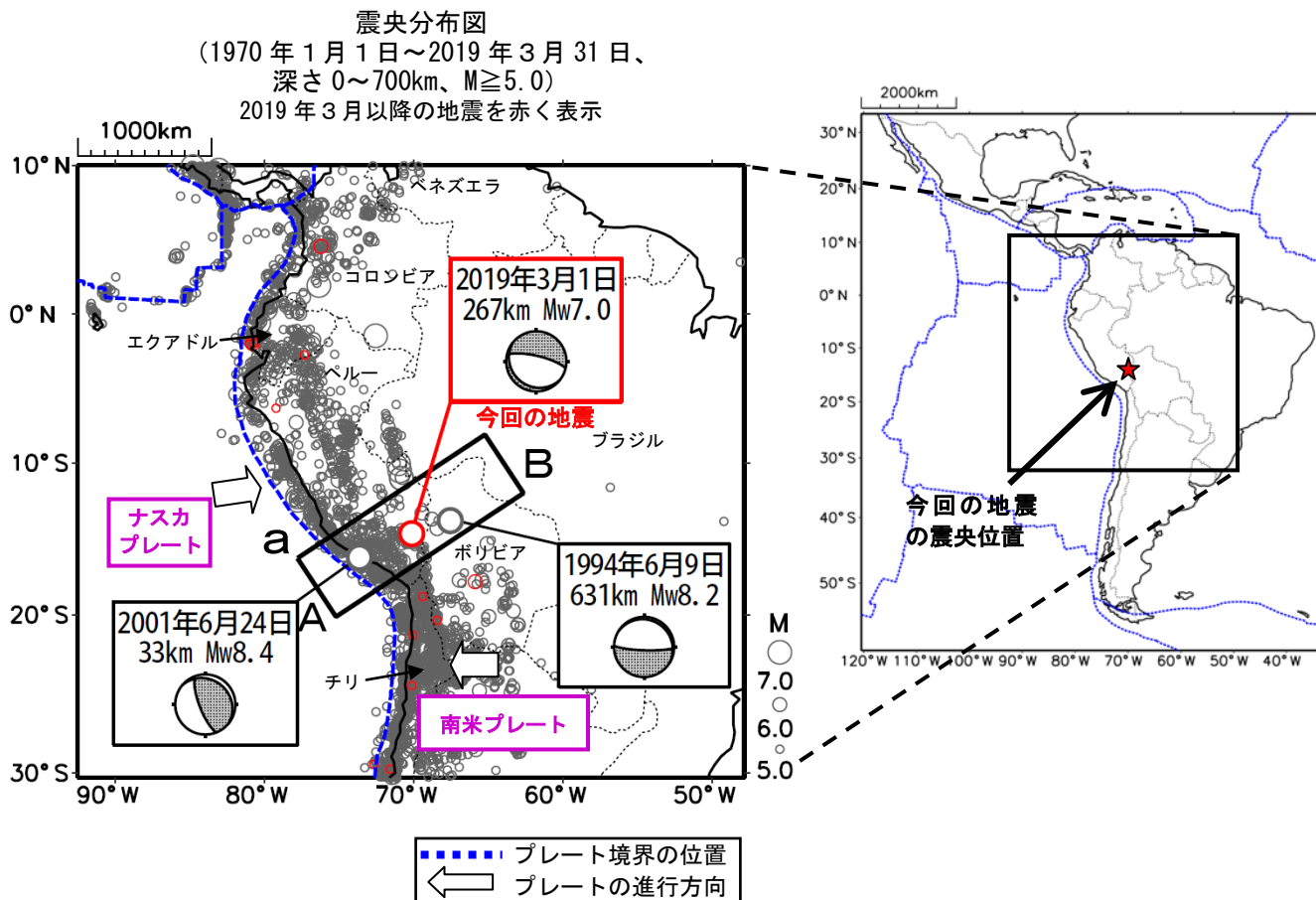


3月1日 ペルー中部の地震

2019年3月1日17時50分（日本時間、以下同じ）にペルー中部の深さ267kmでMw7.0の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は、ナスカプレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型で、南米プレートの下に沈み込むナスカプレート内部で発生した地震である。

気象庁は、この地震に対して、同日18時12分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。

1970年以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M6.0以上の地震が時々発生しているが、M7.0以上の地震が発生したのは今回が初めてである。今回の地震の震央付近（領域a）では、2001年6月24日にMw8.4の地震が発生し、死者139人等の被害が生じた。また、近隣のボリビアでは、1994年6月9日に深さ631kmでMw8.2の地震が発生し、死者10人の被害が生じた。



※本資料中、今回の地震の発震機構及びMwは気象庁、その他の地震の発震機構及びMwはGlobal CMTによる。また、1970年以降の地震のM及び震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2019年4月2日現在）。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）より引用。1994年6月9日の地震及び2001年6月24日の地震の被害は宇津の「世界の被害地震の表」による。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4 (3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.